

令和3年度 半田中学校 学校評価計結果

	自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	重点目標	活動計画	評価指標	評価	学校関係者の意見	
学習指導	1. 授業を大切にし、各教科における基礎・基本を身につけることができる。	1. 各教科で基礎・基本を明確化し、小テストや基礎・基本を中心とした課題を継続的に反復学習をさせ、学習内容が分かった達成感や満足感を得られるようにする。	1. 「学習内容がよくわかるようになってきている」と自信を持って答えた生徒を40%以上とする。	1. 「思う」「どちらかと思う」と答えた生徒が90%いたが、「思う」は16%となり、目標の40%以上を達成できなかった。	B	1. これまでの教育実践とタブレットや電子黒板、デジタル教科書などのICTの長所を融合させながら、すべての生徒が「わかる喜び」を感じ、基礎基本的な学力がしっかりと身につくよう、指導の工夫・改善に取り組んでいく。 2. 家庭と緊密に連携を図りながら、「家庭学習の手引き」等で学習の具体的な進め方を身につけさせる。また、家庭へ持ち帰らせるタブレットを有効に活用しながら、意欲をもって主体的に学習できる習慣を身につけさせ、家庭でも学びの保障が実現できるように取り組んでいく。
	2. 家庭学習の習慣を身につけ、宿題や課題をきちんとやり遂げることができる。	2. 「学習の手引き」を機会を捉えて活用し、自主勉強の方法を示し、宿題以外の勉強の仕方が習得できるよう指導する。	2. 「家庭で課題や自主学習をしている」と答えた生徒の割合を90%以上にする。	2. 「思う」「どちらかと思う」と答えた生徒が84%いたが、目標の90%以上を達成できなかった。	B	
生徒指導	1. いつでも、どこでも、誰に対しても気持ちの良いあいさつと正しい言葉遣いができる。	1. あいさつの意義やTPOに応じた言葉遣いの在り方について伝え、できていない場合にはその都度丁寧に指導する。	1. 「できている」と答える生徒・保護者・教員の割合を90%以上にする。教員間で情報を交換し確認する。	1. 生徒が87%、保護者が75%、教員が83%となり目標の90%以上を達成できなかった。	B	1. 気持ちのいい元気なあいさつは生きていく上での基本マナーであり、今後も継続して指導を行っていく必要がある。方策として生徒会活動などを活性化し、生徒が主体的に「あいさつ運動」に取り組めるような指導を進めていく。 2. 本年度もコロナ禍は終息せず、マスクの着用や三密防止などの徹底により、あいさつという行為に心理的・物理的な制約や制限があった。人と人とのつながりの基本となるあいさつの重要性をもう一度見直し、取組を進めたい。
	2. 授業の始業・終業時のあいさつを心をこめて元気よく丁寧にできる。	2. 「正しく起立すること」「正しく礼をすること」「大きく発声すること」を毎時間継続して身につけさせる。	2. 「できている」と答える生徒・教員の割合を100%にする。教員間で情報を交換し確認する。	2. 生徒が85%、教員が75%となり目標の100%以上を達成できなかった。	B	
道徳・人権教育	1. 生徒が「自分も人も大切に生活できている」と感じられる集団をつくる。	1. いじめなど学校生活に関するアンケートを行う。	1. 「いじめのない学校である」と感じる生徒・保護者・教員の割合を100%にする。	1. 生徒が90%、保護者が86%、教員が100%となり目標の100%以上を達成できなかった。	B	1. 引き続き、いじめに関するアンケートを実施し、結果をもとに面談等を行うことで、いじめの早期発見・早期解決につなげたい。また、いじめは絶対に許されない行為であることを平素の指導で徹底し、いじめのない学校を実現する。 2. 人権や道徳の学習だけでなく、教育活動全体の中で人としてのよりよい生き方を考えさせる。また、教材の工夫や体験活動を通して、個々の生徒の気づきや学びを促しながら道徳性が高まるよう取組を進める。
	2. 思いやりや感謝の心を育て道徳性を高める。	2. 教材を工夫した授業や、体験活動の事前・事後学習を充実させる。	2. 自分の考えを書いたり発表したりすることを通して、自分の生き方を見つけている生徒が95%以上になる。	2. 「思う」「どちらかと思う」と答えた生徒が84%となり、目標の95%以上を達成できなかった。	B	
特別支援教育	1. 「生きる力」を培うための、個々の生徒の特性や能力に応じた、個性や長所を生かす支援・指導に取り組む。	1. 個々の生徒の学習能力や、得意・長所を生かし、伸ばせる支援・指導に取り組む。特別支援学級においては、「個別の指導計画」「教育支援計画」を作成する。	1. 「デジタル機器の使用等をはじめ視覚的・聴覚的にも工夫、配慮された、誰もがわかりやすい指導・支援の取り組みが行われている」と答える保護者が70%以上になる。	1. 「思う」「どちらかと思う」と答えた保護者が86%おり、目標の70%以上を達成した。	A	1. 生徒一人に一台タブレットが貸与されており、引き続き一人一人の個性や特性を考慮した上で、タブレット等を有効に活用し、視覚的・聴覚的に「わかる授業」の指導や支援の充実を図り、個々の生徒の個別最適化が実現できるように取組を進める。 2. 引き続き、県教委発行のリーフレットの配布や学校・学年だより、また日々の教育活動全般を通して発達障がいについての理解や啓発を行う。また、特別支援教育だより等を発行して理解・啓発が深まるように取組を進める。
	2. 特別支援教育について、また発達障がい等についての理解・啓発を図る。	2. 特別支援教育通信や、日々の教育活動全般を通して、生徒および保護者への理解・啓発を進める。	2. 「発達障がいについて、知識・理解を得ることができた」と答える保護者・生徒が75%以上になる。	2. 「思う」「どちらかと思う」と答えた保護者が86%、生徒が92%おり、目標の75%以上を達成した。	A	
健康・安全指導	1. 健康な生活を送るために、望ましい生活リズムを身につけ、習慣化できるようにする。	1. 朝食や睡眠を中心に、生活習慣やメディア機器の使用に関する内容を保健だよりや掲示物を使って啓発したり、様々な場面で指導したりする。	1. 「毎日朝ごはんを食べている」生徒を90%以上、「毎日0時までには就寝できている」生徒を85%以上にする。	1. 「毎日朝ごはんを食べている」生徒は82%、「0時までには就寝できている」生徒は58%で、目標を達成できなかった。	B	1. 家庭でも学校と同一歩調で指導してもらえるように、家庭への啓発を行い、連携を深めていく。また、保健だよりや掲示物等を有効に活用しながら、生徒の健康に対する関心や意欲を高め、実践力が身につくように指導を徹底していく。 2. 引き続き、交通安全教室や交通安全指導、学活などを通して、交通安全に気を付け、交通ルールがしっかりと守れるように指導を徹底していく。生徒の目線だけでなく、地域の方々や保護者、教職員から見ても生徒全員がしっかりと守れているように地域総ぐるみで指導を続けていく。
	2. 交通安全に対する意識を高めると共に、交通ルールやマナーをしっかりと守れるような生活ができるようにする。	2. 交通安全教室や交通安全指導、学活や道徳などの授業を活用し、指導を進めていく。また、委員会活動で主体となった活動を行っていく。	2. 「交通安全に気を付けてルールやマナーが守れている」と答える生徒の割合を90%以上にする。	2. 「思う」「どちらかと思う」と答えた生徒が97%おり、目標の90%以上を達成できた。	A	
開かれた学校づくり	1. 保護者や地域の方々の学校運営や教育活動についての理解を深めるようにする。	1. 職員間で協力し、魅力的なHP作りを心がける。学校行事などに加えて普段の学校生活の様子において工夫した発信を行い、日常の様子を知ってもらう。	1. 週に1回以上、HPに生徒の学校生活や部活動などの様子をお知らせする記事を掲載する。	1. 各学年とも主な行事を実施した後は、HPに記事を掲載した。大きな学校行事はもれなく記事を掲載した。	A	1. 引き続き、HPを有効に活用して、保護者や地域の方々に学校運営や教育活動についての情報発信を積極的に行っていく。コロナ禍で保護者の皆様等を学校にお招きできなくても、学校の様子がよくわかるように、創意工夫を重ねながら情報提供を進めていく。 2. 今後もコロナ禍が継続することを視野に入れ、毎月1回程度学年・学級だより等を発行し、学校生活の様子や生徒の感想や思いが保護者の皆様をはじめたくさんの皆様に伝わるように取組を進めていく。
	2. 学校・家庭・地域の連携を深める。	2. 保護者・地域との連携を密にし、学校開放や学校行事への関心を高める。	2. 全学年が学年便りを月1回程度発行し、学校生活や学校行事等の様子を伝える。(学校開放アンケートを実施できなかったため、変更しました。)	2. どの学年も毎月1回学年・学級だよりを発行して、学校生活の様子や生徒の感想等を伝えた。	A	

別紙参照

